

# 自悠新聞

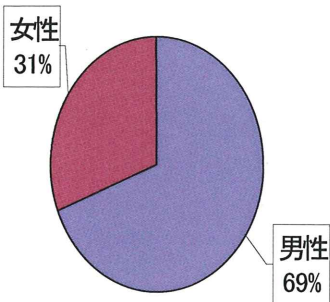
〒980-6101

仙台市青葉区中央1-3-1 アエル1階  
発行所 丸善仙台出版サービスセンター

平成21年(2009)2月 No.76  
印刷 東北堂印刷(株)

☎022-264-0151 fax022-264-0112  
sd-aer@maruzen.co.jp 編集長 石森浩一

## ① 著者の男女比



今月号は、丸善仙台出版サービスセンターが制作した自費出版本100点について、そのデータを分析し、結果を円グラフに示して解説してみたいと思います。円グラフにまとめたデータは①著者の男女比、②制作時の著者の年齢、③出版された自費出版本の分野、④判型の4項目です。自費出版ライブラリー(東京・日本橋)のデータも参考にしてみました。  
(平成21年1月現在)

### ①著者の男女比

丸善仙台出版サービスセンターで制作された著者の方々は、仙台駅前にある丸善仙台アエル店の店頭には並ぶ「自費出版本」を見て、丸善でも自費出版の制作をしていることを知ることもあるようですし、あるいは、この『自悠新聞』を読まれて「丸善の自費出版」を知ることもあるようです。

いずれにしても、男性、女性にかかわらず「丸善」というネームはご存知であると思うのですが、「丸善の自費出版」に関しては男性が69%と女性を圧倒しています。

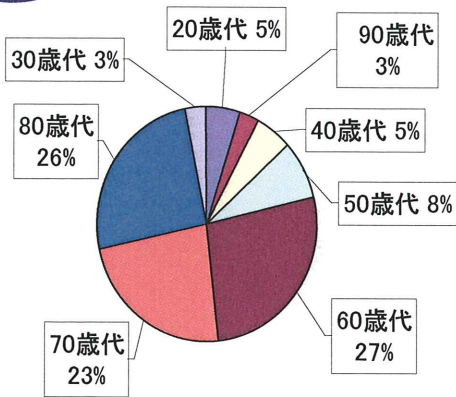
「書店」の丸善」という知名度からか、男性の著者の方々の職業は元、学校の先生が多いのが丸善仙台出版サービスセンターの特徴です。しかし、女性の方々の職業はやはり先生であった方が多いものの、様々な職業です。

近頃は女性の制作ご相談が多く、今までの男性優位の傾向も逆転するのではないかと思います。

円グラフで見る

丸善仙台出版サービスセンター制作の自費出版本の傾向

## ② 制作時の年齢



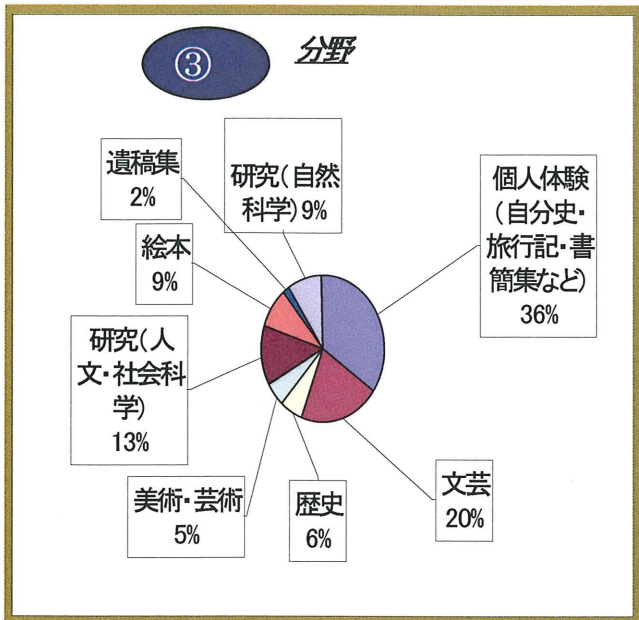
その結果は『データでさぐる自費出版のすがた』として一冊の小冊子に纏められている。この中で伊藤館長は自費出版書について、次のように述べている。「自費出版書は自費で出版したものです。なぜ自費かと言えば、自費出版書のほとんどが、まずは自分自身のため、家族のため、子孫のため関係者に残す記録であって、内容が個人的なものであったり狭い地域の記録であったりするからです。自費出版書は独自の貴重な文化財です。商業出版書の落ちこぼれではありません」と。

商品価値が万能の時代にあつて自費出版本は独自の光を放っている。

## M マルエム春秋

東京日本橋蛸殻町に「特定非営利活動法人・自費出版ライブラリー」がある。一九九四年(昭和三十四年)の設立以来日本全国の自費出版本を地道に蒐集し二〇〇五年現在2万1274点の蔵書を持つ。館長の伊藤晋さんがこの2万1274点の自費出版書のデータを分析し「自費出版」ならではの特徴を克明に調べている。

その結果は『データでさぐる自費出版のすがた』として一冊の小冊子に纏められている。この中で伊藤館長は自費出版書について、次のように述べている。「自費出版書は自費で出版したものです。なぜ自費かと言えば、自費出版書のほとんどが、まずは自分自身のため、家族のため、子孫のため関係者に残す記録であって、内容が個人的なものであったり狭い地域の記録であったりするからです。自費出版書は独自の貴重な文化財です。商業出版書の落ちこぼれではありません」と。



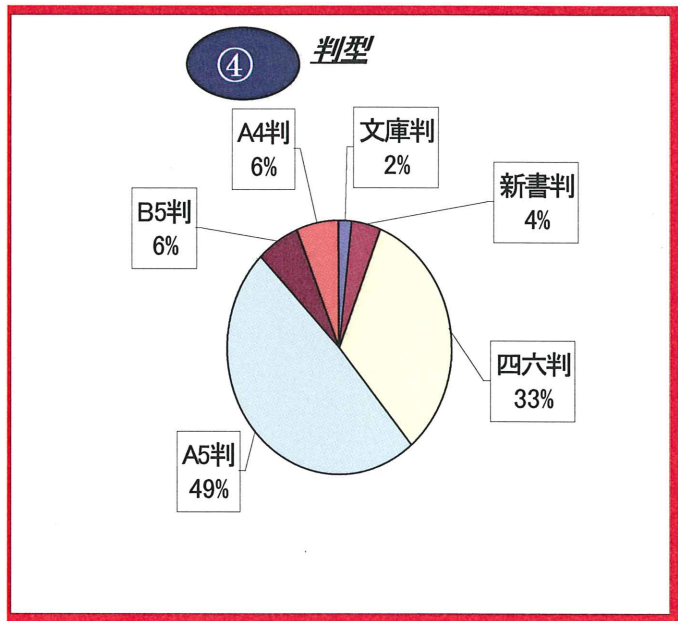
### ②制作時の著者の年齢

本を制作した時の著者の年齢で一番多いのが60歳代、次に80歳代、そして70歳代と続きます。丸善の特徴なのでしょうか80歳代が26%と2番目に多くなっています。これら60歳代から90歳代を合わせると、全体の79%つまり約8割の方が60歳以上となっています。そして、60歳(還暦)80歳(傘寿)といった人生の区切りに当って何らかの記録を残したいという動機が見えてきます。この特徴は東京にある「自費出版ライブラリー」の蔵書(2万1274点)のデータでも同じような傾向がみられます。中高年の方がご自身の人生の足跡や生きた証を残したいと考えるのは自然のお気持ちではないでしょうか。90歳の方も何度かの校正をむしろ楽しみにして本づくりに励んでいらっしゃいます。

### ③本の分野


このデータ分析での「本の分野」は、いわゆるNDC(日本十進分類法)による分類とは違い独自の分類をしています。上図の通りの8分類です。自費出版書を主に所蔵している図書館は全国で20館ほどありますが、これらもほぼ同じ分類をしています。そのどれもが規模が小さいので細かな分類を必要としないということも理由の一つです。

丸善で制作の自費出版本で1番多いのが個人体験書です。これは自分史、旅行記、書簡集など個人の体験をまとめたものです。次に多いのが文芸書。これらは詩集(30%)、句集(20%)、随筆(20%)、小説(10%)となっています。丸善の特徴なのでしょうか、研究書も人文社会、自然科学を合わせると22%と文芸に匹敵する点数となっています。



最近の出版分野の傾向として、絵本・写真集など趣味の本の制作が増えていきます。自分が描いてきた絵の作品集を作るとか、今まで撮りためた写真を写真集として残すとか、短歌とか俳句などを一冊の本に纏めるのと同じ感覚でしょう。絵や写真はカラー印刷が多くなるので制作費は嵩みませんが、印刷技術の発達によりきれいな色が表現でき、装丁なども工夫するとセンス溢れる素晴らしい本として仕上げられます。

本づくりの楽しみは「その過程にある」と言っても過言ではありません。つまり、本全体の構成を考える、出来てきたゲラ刷(初校〜三校くらいまで)を校正していく、その間に更に推敲を重ねる、装丁表紙などのデザインを考える、様々なアイデアがこの間に出てくる、自費出版会社のアドバイザーとのやりとり、こうしたことの繰り返し、が何といても楽しいという著者の方が圧倒的に多いのも確かです。そして、この苦勞(?)のあとの「完成」・感激の一瞬です。




**丸善仙台アエル店**

**丸善の自費出版**

あなたの本を創ってみませんか！

丸善は書店としての経験をいかして自費出版本制作のお手伝いをさせていただいております。お気軽にご相談下さい。随時承っております。

☎022-264-0151 携帯 090-5184-0532(自費出版アドバイザー石森)



**営業時間**  
10:00~21:00

**日曜祝日は 20:00迄**